

## 『こどものとも』に表れた性差 2

### —性別役割意識と労働観—

武田京子\*

(2000年1月7日受理)

Kyoko TAKEDA

#### A Gender Gap in "KODOMONOTOMO" 2

月刊物語絵本『こどものとも』創刊号から514号を資料とし、女性の社会的地位向上と深くかかわりをもつ、性別役割分業と労働への意識の変化が『こどものとも』にどのように反映しているかを分析考察した。

社会の動きに少し遅れながらも、固定化した性別役割意識は薄れつつあるが、日常生活を題材に絵本化される例は少ないことがわかった。

[キーワード] 月刊絵本, ジェンダー, 性別役割分業,

### 1. はじめに

月刊物語絵本『こどものとも』は、1956年に創刊され現在まで継続して刊行されている。前報<sup>1)</sup>では作者及び主人公の性差に着目して考察を行い、女性の社会進出にともない『こどものとも』のテキスト(文章)や絵(イラスト)に女性がかかわることが多くなり、主人公の男女比は男性優位から均衡へ変化しているという結果を得た。これは、女性の社会的な進出に伴う、地位向上の現れと考えることが出来る。しかし、増加した女性主人公は、個性的で活力にあふれる女の子像・おばあさん像が多く、働く女性像はごく少数に限られている。老人への関心の高まりは、わが国の高齢化社会への突入と関連していると考えられるが、働く女性が描かれないうことへの疑問が生じた。

そこで本研究では、テキストの中には表現されないイラストの中にかくされたメッセージにも着目しながら、女性の社会的地位向上に関連のある性別役割分業と労働への意識の変化が、『こどものとも』にどのように反映しているかを分析考察した。

---

\* 岩手大学教育学部家政科

## 2. 性別役割分業と女性労働

社会の基盤となっている原理の中で、性差（ジェンダー）は重要なものの一つであり、性別役割分業のない社会は存在しないといつて良い。性別役割分業には生物学的な性差による自然的分業と社会・文化的性差による習慣的分業があるが、その区別は付けにくい。

上野によると性分業は根拠のある分業ではなく、(1)特定の活動が男性に独占され、そこから女性が排除されていること、(2)この活動によってしばしば男性が定義されていること、(3)男性が独占している活動は一般に女性に割り当てられている活動より価値が高いと見なされていること、という共通点がある。性分業によって女性をある活動から閉め出すことによって男性に権威と権力を集中させ男性優位の普遍性を確立させているのだが、この起源ははっきりしないともいう。同様に、男性が女性や子どもを外敵から護る役割についても、人類には天敵（捕食動物）は存在せず、人類の男性は自分自身の利益のために他の集団の男性から女性と子どもを護っている。また、新石器時代の生存レベルにある部族の実証研究によれば、当たり外れの大きい男性の狩猟による食物取得に依存するよりも、育児中であっても可能な女性の採集と小動物の狩猟による食物取得の方が着実であることを理由に、未開人の男性の狩猟に依存する性分業は近代人の作り出した神話であるという。これらの神話は、「男は仕事、女は家庭」という近代家父長制に固有の性別役割分担が成立してから後に、自然化され過去に投影されたものであると説明する<sup>2)</sup>。

わが国においても、妊娠、出産、授乳の生物的機能を理由に、育児は女性の役割と考えられ、女性の家庭外の労働は家計の補助として位置づけられた結果、賃金や労働条件は劣悪な状態に置かれてきた。多くの男性は家庭生活から疎外され、「男性は仕事、女性は家庭」という専業・分業化という性別役割分業がすすめられ、その結果、社会のあらゆる場で、経済効率の良い男性が女性の優位に立つという形をとり続けた。しかし、1960年代末から70年代にかけての「ウーマン・リヴ」と呼ばれる新しい女性解放運動を契機に、世界的に女性の地位向上を図る運動が起こった。わが国もこの動きに同調し、1985年「男女雇用機会均等法」を制定し、現在、男女共同参画社会の実現のための動きは継続しているが、性別役割分業意識には根強いものがあるのが現状である（図1）<sup>3)</sup>。「男は仕事、女は家庭」

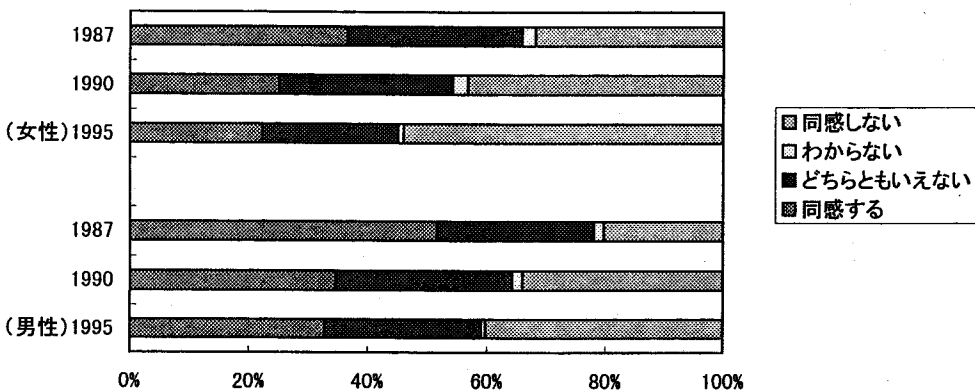


図1 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

















